

春日部駅周辺(都市拠点(都心))地区
都市再生整備計画事業
事後評価シート

令和4年2月

埼玉県 春日部市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県		市町村名	春日部市	地区名	春日部駅周辺(都市拠点(都心))地区		面積	1.6ha		
交付期間	令和元年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和3年度	交付対象事業費	817百万円	国費率	0.5			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路:八木崎駅前広場整備、市道2-12号線等拡幅等整備								
		提案事業									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	-		-		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	なし	-		-					
	新たに追加した事業	基幹事業	誘導施設・児童発達支援センター整備	当初計画では、関連事業であった複合施設整備(児童発達センター)を基幹事業に位置付けた。		-		影響無し			
		提案事業	なし	-		-					
交付期間の変更	当初変更	令和元年度～令和2年度 なし	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	安全で良好な市街地の形成	%	63.7	R4		51.9	×	あり なし ●	駅前広場整備や市道拡幅事業により、市街地環境が向上したが、目標を達成できなかったため、その他指標で効果を確認する。	令和4年10月
	指標2	子育て家庭への情報提供・相談体制の充実	%	30	R5		20	×	あり なし ●	複合型子育て支援施設の整備により、子育て家庭への情報提供・相談体制の充実が図られたが、目標を達成できなかったため、その他指標で効果を確認する。	令和4年10月
指標3	施設統合による維持管理費の減少	万円	20,424	R3		34,452	×	あり なし ●	複合型子育て支援施設は、旧対象施設と比較して、規模が大きく、定員の増加や病児保育の実施等により、管理運営のため旧対象施設より多くの維持管理費が必要であり、目標を達成できなかったため、その他指標で効果を確認する。	令和4年10月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	八木崎駅北側地区の生活利便性の向上(医療・子育て・福祉)施設の立地数	施設	/			4	/	駅周辺空間の整備に伴い、生活利便施設が八木崎駅北側に開設し、近隣住民や駅利用者の利便性が向上した。	/	
	その他の数値指標2	子育て家庭への支援の充実(市内保育所等の入所者数)	人	/			3,273	/	市内保育所等の定員が増加し市内保育所等の入所者の増加につながった。また、駅周辺空間の整備に伴い、子供の送迎する際の道路環境の安全性も向上した。	/	
その他の数値指標3	単位面積あたりの維持管理費の減少	円/m ²	/			149,797	/	複合型子育て支援施設は、旧対象施設より規模が大きく、定員の増加や病児保育の実施等の機能の拡充が図られたものの、単位面積あたりの維持管理費は縮減し効率的な維持管理が実施されている。	令和4年10月		
4)定性的な効果発現状況	・駅前広場や歩道拡幅の整備によって、安全性の向上や駅から公共施設等を結ぶネットワーク道路の環境の向上に寄与した。										
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	持続的なまちづくり体制の構築	自治会、地元小学校、高校、自治体で連携し、草花の寄せ植えによる花絵作成、世代間交流、イベントの開催、防災面での連携等を図る。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				なし ●				

様式2-2 地区の概要

春日部駅周辺(都市拠点(都心))地区(埼玉県春日部市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値		
「世代が循環する」持続可能なまち ・魅力・活力ある拠点の形成 ・公共交通ネットワークの形成 ・交通結節機能の向上及び歩いて暮らせる交通環境の形成 ・世代循環に向けた緩やかな居住の誘導	安全で良好な市街地の形成	単位: %	60.7	H28	63.7	R4	51.9	R3
	子育て家庭への情報提供・相談体制の充実	単位: %	25	H28	30	R5	20	R3
	施設統合による維持管理費の減少	単位: 万円	20,524	H29	20,424	R3	34,452	R3
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;">  <p>複合施設整備(児童発達支援センター等)</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  <p>■基幹事業(誘導施設) 複合施設整備(児童発達支援センター等) (延床面積A=1307.4㎡) R1、R2年度事業内容:本工事</p> <p>■基幹事業(道路) 八木崎駅前広場整備(A=730㎡) R1年度事業内容:本工事</p> <p>○関連事業 世代間交流、地域交流事業 (駅前広場の維持・管理等) (市単独補助事業)</p> <p>○関連事業 世代間交流、地域交流事業 (コミュニティイベントの実施等)、 複合施設整備(保育所) (市単独補助事業)</p> <p>■基幹事業(道路) 市道2-12号線等拡幅等整備(L=210m) R2年度事業内容:本工事</p> <p>凡 例 ■ 基幹事業 ■ 提案事業 ■ 関連事業 — 都市再生整備計画の区域(1.6ha)</p> </div> <div style="width: 25%;">  <p>八木崎駅前広場整備</p>  <p>市道2-12号線等拡幅等整備</p> </div> </div>								
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 市道拡幅や駅前広場整備により、駅から公共施設を結ぶ良好なネットワークが形成された。(課題:公共施設の整備とあわせたネットワークの構築)【目標:公共交通ネットワークの形成、交通結節機能の向上及び歩いて暮らせる交通環境の形成】 複合施設は障がいのある子どもたちへの療育支援と保育所機能を有する埼玉県内初の一体型の複合型子育て支援施設であり、地域を代表する施設となっている。また、生活利便施設の立地が増えたことで、対象区域内の利用目的の幅が広がった。(課題:市民がまちに対する誇りや愛着を取り戻し、来訪者が回遊できる地域資源を活かしたまちづくり)【目標:魅力・活力ある拠点の形成、世代循環に向けた緩やかな居住の誘導】 市道拡幅や駅前広場整備により、安心して歩ける歩行者空間が確保された。(課題:安心して歩ける歩行者空間の確保)【目標:交通結節機能の向上及び歩いて暮らせる交通環境の形成】 市道拡幅や駅前広場整備により、駅周辺環境が改良され、駅利用者の利便性が向上した。生活利便施設が開設し、近隣住民や駅利用者の利便性が向上した。(課題:身近な生活サービス機能の確保及び公共サービス等へのアクセスの向上)【目標:公共交通ネットワークの形成、交通結節機能の向上及び歩いて暮らせる交通環境の形成、世代循環に向けた緩やかな居住の誘導】 							
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 八木崎駅周辺は春日部駅周辺都市拠点に隣接した居住誘導区域として人口の維持を図る。 次世代が住み続け、子育てをして新たな世代に受け継ぐ、世代が循環するまちを目指し、居住誘導区域を重点に既存の子育て施設の運営者と連携しながら子育て環境の充実を図る。 複合施設利用者と地域住民をつなぐ定期的なイベント等取組の実施支援。 八木崎駅周辺の来訪者の定着・増加や愛着を図るため、施設や駅前広場を使った維持管理活動の支援。(施設や道路の維持管理活動等) 							

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

		変更		変更前	変更後	変更理由
		あり	なし			
A. まちづくりの目標			●			
B. 目標を定量化する指標		●		<ul style="list-style-type: none"> 指標「公共交通の利用者数増加」(八木崎駅の1日平均乗降人員) 指標「待機児童の減少」(春日部市内の待機児童数) 	<ul style="list-style-type: none"> 指標「公共交通の利用者数増加」は指標「安全で良好な市街地の形成」に(「安全で良好な市街地の形成」に満足している市民の割合)修正。(第1回変更) 指標「待機児童の減少」は指標「子育て家庭への情報提供・相談体制の充実」(子育て支援について、子育て家庭への情報提供・相談体制の充実を重要と感じる市民の割合)に修正。(第1回変更) 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施による効果を市民意識調査の住民の満足度等から計測する指標へ変更した。
C. 目標値		●		<ul style="list-style-type: none"> 指標「施設統合による維持管理費の減少」(公共施設の維持管理費) (従前値: 836,000万円→目標値: 835,900万円) 	<ul style="list-style-type: none"> 指標「施設統合による維持管理費の減少」(公共施設の維持管理費) (従前値: 20,524万円→目標値: 20,424万円) 	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設全体の維持管理費ではなく、整備対象の複合型子育て支援施設に関連する施設の維持管理費の数値へと変更した。
D. その他	(区域の拡大)		●			
	(整備方針等の表現の適正化)		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	八木崎駅前広場整備	20.0	730㎡	16.0	730㎡	当初見積りより事業費が少額となったため事業費を減額	影響無し	○	
道路	市道2-12号線等拡幅等整備	10.0	L=210m	10.0	L=210m	変更なし	—	○	
誘導施設	社会福祉施設 児童発達支援センター整備	324	774㎡	791	1307.4㎡	当初計画では、関連事業であった複合施設整備(児童発達センター)を基幹事業に位置付けた。計画過程で、当初より規模が大きくなり事業費増加	影響無し	○	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)都市構造再編集中支援事業関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
複合型子育て支援施設		保育所	756	555	R1~R2 (H31~H32)	R1~R2	事業完了により、R3.4より運営開始。	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし
指標1	%	「令和3年度市民意識調査(令和3年8月～9月実施)」の「市が行っている施策に対する満足度」における都市基盤に対する満足度の回答を利用する。			60.7	H28	63.7	R4	モニタリング		モニタリング		●	
									事後評価	確定見込み ● 51.9	事後評価	×		
指標2	%	「令和3年度市民意識調査(令和3年8月～9月実施)」の「保健・医療・福祉における取り組みについて」の回答を利用する。			25	H28	30	R5	モニタリング		モニタリング		●	
									事後評価	確定見込み ● 20	事後評価	×		
指標3	万円	対象施設の維持管理費を計測する。			20,524	H29	20,424	R3	モニタリング		モニタリング		●	
									事後評価	確定見込み ● 34,452	事後評価	×		
指標4									モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み ●	事後評価			
指標5									モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み ●	事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	駅前広場の整備や市道拡幅により、八木崎駅周辺の安全で良好な市街地の形成に寄与したものと考えられるが、目標を達成できなかった。	従前値の市民意識調査の設問「安全で良好な市街地の形成」が、令和元年に「鉄道駅周辺の更新・再生(安全で良好な市街地の形成)」と「計画的な土地利用の推進(安全で良好な市街地の形成)」に分割されたことで、従前値と評価値を単純に比較することが困難となっている。ただし、変更時点の令和元年度は満足度が大きく低下したが、令和2年度、令和3年度と徐々に回復傾向にある。 なお、市民意識調査は市全域を対象とした設問となっており、その結果は本地区やそこでの実施事業を直接評価したものではない。
指標2	複合型子育て支援施設の整備により、施設利用者を中心とした子育て家庭への情報提供・相談体制の充実に寄与したものと考えられるが、目標を達成できなかった。	市民意識調査の設問「子育て支援について、市の取組として重要と思うものはどれですか(3つまで選択)」のうち「子育て家庭への情報提供・相談体制の充実」と回答した割合を利用している。計画時の指標設定では、施設の整備により相談員が配置されることから、支援・情報提供が拡充されることにより、重要と思う割合が上がる想定をしていた。しかし、事業の効果が発現した場合、市民は市の取組として十分だと考え、今後の「市の取組として重要と思う」として、本項目を選択しない可能性も考えられる。 なお、市民意識調査は市全域を対象とした設問となっており、その結果は本地区やそこでの実施事業を直接評価したものではない。
指標3	対象の複合型子育て支援施設は、旧対象施設(旧ふじ学園、第3保育所)と比較して、規模が大きく、定員の増加や病児保育の実施等の機能の拡充により、管理運営ために旧対象施設より多くの維持管理費が必要であり、目標を達成できなかった。	本市の公共施設マネジメント基本計画や立地適正化計画に基づき、整備検討を進めており、本施設は旧対象施設より規模が大きく、定員の増加や機能の拡充が行われたため、対象施設の維持管理費の合計の比較ではなく、単位面積当たりの維持管理費を比較することで事業の効果発現の確認が可能であると考える。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)		
			基準 年度		基準 年度								
その他の数値指標1	八木崎駅北側地区の生活利便性の向上	施設	八木崎駅北側400m圏の生活利便施設(商業・医療・子育て・福祉)の立地数			2	H29	モニタリング			4	駅周辺空間の整備により、対象区域内に商業施設や子育て施設が八木崎駅北側に開設し、近隣住民や駅利用者の利便性が向上したため	八木崎駅周辺は、概ね駅400m圏の生活利便施設の施設立地が少ないとされており、特に八木崎駅北側の400m圏域には商業・子育て施設が立地していない状況であった。
								事後評価	確定 ●	見込み			
その他の数値指標2	子育て家庭への支援の充実	人	市内保育所等の入所者数			2,688	H29	モニタリング			3,273	市内保育所等の定員が増加し、子育て家庭への支援に貢献したため	
								事後評価	確定 ●	見込み			
その他の数値指標3	単位面積あたりの維持管理費の減少	円/㎡	対象施設の単位面積あたりの維持管理費			151,135	H29	モニタリング			149,797	複合型子育て支援施設は旧対象施設より規模が大きく、定員の増加や病児保育の実施等の機能の拡充が図られたものの、単位面積あたりの維持管理費は縮減し効率的な維持管理が実施されているため	
								事後評価	確定 ●	見込み			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・駅前広場や歩道拡幅の整備によって、安全性の向上や駅から公共施設等を結ぶネットワーク道路の環境の向上に寄与した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	—	—	—
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	—	—	—
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
自治会、地元小学校、高校、自治体で連携し、草花の寄せ植えによる花絵作成、世代間交流、イベントの開催、防災面での連携等を図る。	予定どおり実施した	—	—	なし
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 活動場所の整備により)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
課内担当者会議	都市整備部まちづくり推進課	令和3年10月	都市整備部まちづくり推進課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標の種別		その他指標1		その他指標2		その他指標3			
		指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見				
			八木崎駅北側地区の生活利便性の向上(生活利便施設の立地数)		子育て家庭への支援の充実(市内保育所等の入所者数)		単位面積あたりの維持管理費の減少(対象施設の単位面積あたりの維持管理費)				
基幹事業	八木崎駅前広場整備 市道2-12号線等拡幅等整備 児童発達支援センター整備	○ ○ -	駅周辺空間の整備に伴い、生活利便施設が八木崎駅北側に開設し、近隣住民や駅利用者の利便性が向上した。	○ ○ ◎	児童発達支援センター整備、保育所の整備により市内保育所等の定員が増加し市内保育所等の入所者数の増加につながった。また、駅周辺空間の整備に伴い、子供の送迎する際の道路環境の安全性も向上した。	- - ◎	複合型子育て支援施設は旧対象施設より規模が大きく、定員の増加や病児保育の実施等の拡充が図られたが、複合施設となったことで管理諸室の共有化等により、単位面積あたりの維持管理費は縮減しており、効率的な維持管理を実施できるようになった。				
提案事業											
都市構造再編集中支援事業	保育所	-				◎			◎		

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	民間施設であるため、今後も圏域人口の維持に寄与する立地適正化計画の推進等の施策を検討していく。	今後も子育て家庭の利用者の満足度につながるよう施設運営者との連携を図っていく。	施設運営者と連携しながら、効率的な維持管理を継続していく。
-------	---	---	-------------------------------

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3		
指標名		安全で良好な市街地の形成			子育て家庭への情報提供・相談体制の充実			施設統合による維持管理費の減少		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	八木崎駅前広場整備	△	駅前広場整備や市道拡幅事業により、市街地環境が向上したが、目標を達成できなかったため、その他指標で効果を確認する。	I	-	児童発達支援センター整備や保育所の整備により、子育て家庭への情報提供・相談体制の充実化が図られたが、目標を達成できなかったため、その他指標で効果を確認する。	I	-	対象の複合型子育て支援施設は、旧対象施設と比較して、規模が大きく、定員の増加や病児保育の実施等の機能の拡充により、管理運営のためには旧対象施設より多くの維持管理費が必要であり、目標を達成できなかったため、その他指標で効果を確認する。	I
	市道2-12号線等拡幅等整備	△			-			-		
	児童発達支援センター整備	-			△			-		
提案事業										
都市構造再編 集中支援事業	保育所	-			△			△		

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	指標を立案する際は、事業の効果が押し量れるようなものとするように留意する。	指標を立案する際は、事業の効果が押し量れるようなものとするように留意する。	指標を立案する際は、事業の効果が押し量れるようなものとするように留意する。
------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
課内担当者会議	都市整備部まちづくり推進課	令和3年10月	都市整備部まちづくり推進課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
中心市街地に子育て支援施設・公共施設の整備とあわせて、これらが活用できるネットワークの構築が求められている。	市道拡幅や駅前広場整備により、駅から公共施設及び公園等を結ぶ良好なネットワークが形成された。		
中心市街地の核となる施設の整備とともに、市民がまちに対する誇りや愛着を取り戻し、来訪者が回遊して時間消費ができるよう、地域資源を活かしたまちづくりが望まれる。	今回整備した施設は、障がいのある子どもたちへの療育支援(児童発達支援センター)と、保育所機能を有する埼玉県内初の一体型の複合型子育て支援施設であり、地域を代表する施設となっている。 また、対象区域内に生活利便施設の立地が増えたことで、対象区域内の利用目的の幅が広がった。	複合型子育て施設及び生活利便施設を目的とした来訪者は増加した可能性が高いが、それ以外に回遊して時間消費ができるようなコンテンツが不足している。	
中心市街地の幹線道路の一部ではバリアフリー化や歩道の整備も不十分であり、安心して歩ける歩行者空間の確保が望まれている。	市道拡幅や駅前広場整備により、安心して歩ける歩行者空間が確保された。		
身近な生活サービス機能の確保及び公共サービス等へのアクセス向上のため公共交通(駅・バス停周辺)の環境整備を一層推進する必要がある。	市道拡幅や駅前広場整備により、駅周辺環境が改良され、駅利用者の利便性が向上した。 対象区域内に生活利便施設が開設し、近隣住民や駅利用者の利便性が向上した。生活利便施設の開設は、駅前環境の改良も一因であると考えられる。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	生活利便性の維持	立地適正化計画に即して、八木崎駅周辺は春日部駅周辺都市拠点に隣接した居住誘導区域として、人口の維持を図っていく。	・立地適正化計画の推進(道路や河川などの公共空間を活用した賑わいの創出、まちなか居住の推進、多様な関係者が連携したまちづくり組織の形成)
	子育てしやすい環境の維持・向上	次世代が住み続け、子育てをして新たな世代に受け継ぐ、世代が循環するまちを目指し、居住誘導区域を重点に、既存の子育て施設の運営者と連携しながら子育て環境の充実を図る。	・子育てふれあい公園リニューアル事業 ・事業者の保育所設置の支援

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	複合施設は、地域住民が誇れる地域に開かれ、地域に根ざした施設を目指す(春日部市複合型子育て支援施設整備事業計画より)	施設利用者と地域住民をつなぐ定期的なイベント等取組の実施。	・花絵花壇を中心とした交流支援
	八木崎駅周辺の賑わいの向上	来訪者の定着・増加や愛着の形成を図るため、施設や駅前広場を使ったイベントの実施。(施設や道路の維持管理活動等) 地元組織と連携しながら行政は側面支援を行う。	・維持管理活動の支援

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定 ●	見込み ○			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	安全で良好な市街地の形成	%	60.7	H28	63.7	R4	確定 ●	51.9	×	あり ●	→	令和4年10月	令和4年8月に実施する市民意識調査の結果により達成状況を確認する。	
							見込み ○							
指標2	子育て家庭への情報提供・相談体制の充実	%	25	H28	30	R5	確定 ●	20	×	あり ●	→	令和4年10月	令和4年8月に実施する市民意識調査の結果により達成状況を確認する。	
							見込み ○							
指標3	施設統合による維持管理費の減少	万円	20,524	H29	20,424	R3	確定 ●	34,452	×	あり ●	→	令和4年10月	令和4年3月末の公共施設の維持管理費より確定値を求める。	
							見込み ○							
指標4							確定 ●			あり ●	→			
							見込み ○							
指標5							確定 ●			あり ●	→			
							見込み ○							

その他の数値指標1	八木崎駅北側地区の生活利便施設数	件	2	H29	/	/	確定 ●	4	/	/	→			
							見込み ○							
その他の数値指標2	子育て家庭への支援の充実	人	2,688	H29	/	/	確定 ●	3,273	/	/	→			
							見込み ○							
その他の数値指標3	単位面積あたりの維持管理費の減少	円/m ²	151,135	H29	/	/	確定 ●	149,797	/	/	→	令和4年10月	令和4年3月末の公共施設の維持管理費より確定値を求める。	
							見込み ○							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	
	うまく いかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	・計画策定時には、目標、事業の構成、数値指標の整合性に十分配慮することが望まれる。
	うまく いかなかった点	・指標1、指標2、指標3については、事業実施による効果を推し量ることができなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	—	
	うまく いかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・庁内関係課との意見交換を行い、検討を進めたため、地区のまちづくりに関する目標や課題、事業効果、今後のまちづくり方策を共有することができた。	・可能な限り、庁内関係課との意見交換を行い、検討を進めることが望まれる。
	うまく いかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	
	うまく いかなかった点	—	

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	春日部市ホームページ	令和3年12月15日～12月28日	令和3年12月15日～12月28日	担当課への 持参・郵送 (所定様式への記載)	春日部市 都市整備部 まちづくり推進課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他					

住民の意見	意見なし
-------	------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	藤江 昌嗣 明治大学 経営学部教授(会長、議長) 前田 英寿 芝浦工業大学 建築学部教授(会長代理) 高橋 進 元共栄大学 教授(欠席) 實方 理佐 株式会社都市環境研究所 計画グループ主任研究員 寺部 慎太郎 東京理科大学 理工学部教授	令和4年2月17日	まちづくり推進課	春日部市 公共事業評価実施要綱 第6条	春日部市 公共事業評価監視委員会
その他の委員					

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・市民意識調査に関する指標については、その他特記事項として、市民意識調査は市全域を対象とした設問となっており、その結果は本地区やそこでの実施事業を直接評価したものではない旨を記載すべきという意見があった。
	実施過程の評価	・妥当である。
	効果発現要因の整理	・妥当である。
	事後評価原案の公表の妥当性	・妥当である。
	その他	・なし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・意見なし。
	フォローアップ	・意見なし。
	その他	・なし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の計画の策定に際して、次のような意見があった。 ・指標の設定については、当該地区やそこでの実施事業を客観的に評価できるものとする。 ・事業の効果や手ごたえがつかめる指標となるよう、ハード面とソフト面に着目すること。 ・本委員会での検討も考慮すること。 	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。